



竜泉寺住職のものと思われる墓石

再発見 ふるさと風土記

[5] 地区随一の大神・竜泉寺

むかし、新城石田坂村(石名坂)に、ここ新城沢の内きっての大神があった。真言宗高倉山竜泉寺と言った。藩政の頃は、秋田郡三十三番札所の第二十五番で、境内には他に観音堂と薬師堂も建っていた。ここを菅江真澄が訪れたのは文政八年(1825年)で、この寺の縁起を住職の話として、次のように「笹の屋日記」に書き留めている。

寺は、坂上田村麻呂の創建で、開基は舎人親王の弟君の安彦三位浮房卿。開山は行基菩薩。ご本尊の「徳大勢至菩薩」と「地藏大士」の像二体は、慈覚大師の開眼になるもの。他に行基の作だという翁媪二面の舞楽面を見たが、翁の一部が痛んでいるものの、徳治二年(1307年)の銘がある古いものだった。

これには「生き面」という怪奇な伝説があると聞かされ興味深かったとある。だがこのとき、本堂の隅に立っていた二体の仏像が円空の作だったのに、寺は語らなかったようだ。

その後、月日を経て寺は無住となって風雨にさらされ大正八年(1919年)、ついに能代市の湯殿山祈禱所に移され消えた。今は、往時を語るものとして往時のものらしい墓石数本と、庭木のサルスベリ。他に園池跡の縁取りだけが、ひっそりと藪の中に残っている。

郷土史研究家 永田 賢之助

私のメモリー



筆者は後列右から2番目

野球で明けくれ

私が小学校を卒業し中学へ進んだのは昭和29年。まだ上新城村立中学校だった。小学生と同じ校舎で、校庭が野球の練習場であった。野球が好きだったので同級生7人と入部した。新人は毎日球拾いが練習メニューだったのが、自分はすぐピッチャーの練習を命ぜられた。左投でコントロールもそこそよかったからかも知れない。上級生投手に負ける気はしなかったから毎日投げるのが楽しくて楽しくて。校庭の前方には村役場、左側にはJAがあった。バッティング練習では、毎日のように役場とJAの窓ガラスに打球が当たって壊れ、担当の先生がしょっちゅう謝っていた。

同年に上新城村が秋田市に合併となり、松木台(現在のさとびあ)に中学校が建てられた。新校舎で一年生として学んだのは私達が最初だった。野球の練習は新しく出来た松木台のグラウンドで思い切り走り回った。時々グラウンド拡張の土運びや、遺跡の発掘などをやった。卒業式では「揚げば尊し」「蛍の光」の合唱で涙し、それも乾く間もなく次の日、集団就職で多くの同期生を駅まで見送りに行った。特別列車に乗った最後のクラスでもあり、「涙」で別れた事が忘れ得ぬ66年前の思い出である。

三浦 俊一(上新城小学校 1954年度卒)

人、モノ、風景 上新城 の宝物

大圓和尚が遺した“上新城の宝物”

昌東院の先代住職であった辻大圓和尚は、書画骨董に造詣が深かったし、茶人として名を馳せた粹人でした。呑めば豪放磊落(ごうほうらいらく)で、酒もたばこもやらず生真面目といわれる自分が、意見したりする場面もありました。

そんな性格の和尚さんですが、朗らかで些細なことにはこだわらない方でした。自分より10歳上でしたが、なぜか気さくにお付き合いができて楽しかったですね。

私も書画が好きで、いろんなものを鑑賞したり、集めては家の中に飾ったりしていますが、とある展示会で大圓和尚の書を観て心底感じ入りました。一気にファンになりました。

私は遡ると当家の五代目となりますが、古くからあった中楯(なかだて)といわれる板戸を、長い間離れの納戸に仕舞ってありました。以前から考えていたのですが、あるとき思い立ってその板戸にヤスリを掛けて磨き、昌東院まで軽トラに載せて持ち込んだんです。

和尚に向かって「我が家の家宝にするから、この板戸に和尚の書を頼む」。後にも先にも上新城初、直筆の中楯です。まだ和尚は40代半ばでしたが、よっしゃと一気に書き上げてくれたものです。

大圓和尚からいただいた思い出深い家宝です。まさに“上新城の宝物”ですよ。

上新城中 石井 金悦





上新城版

さとぴあだより

5月



上新城小又で、秋田市第一号の農家民宿「^{じゅうまつ}重松の家」を営む佐藤重博さん。上新城に生まれ育ち、専業農家として美味しいお米や野菜を育ててきた佐藤さんに、地域についてお話を聞きました。

そこに暮らす人々 vol.02 佐藤 重博さん

— 昔の上新城について教えてください。

小学校の頃、秋田県の地図を見ると上新城白山には鉱山の印がありました。当時の古老によると、江戸時代から銀がとれていたようです。高校の頃に大規模な鉱山調査が行われ、銀の含有量が少ないために立ち入りできないようになってしまいましたね。跡地に行けば今でも製錬したときに出るカスが混じった赤い土が見られると思いますよ。

— 白山には銀山の歴史があるのですね。当時はどんな様子だったのでしょうか。

川舟や馬で鉱山労働者へ食料を届けていたと聞いていました。酒屋もあり、芸者も多く来ていたそうです。「^{ながさかせんげんぶらく}長坂千軒部落」という地名が残っていることから当時はかなり栄えていたと思いますよ。イワナ獲りに鉱山近くへ行くと、住居や吊り橋、トロッコの線路の跡が残っていましたね。今は「白山」ですが、昔は「^{しらかねやま}白金山」と呼ばれていました。

— 上新城はどのようなところだと感じますか。

秋田の「奥座敷」のようなところですかね。華やかさはないけれど、ゆっくりとした時間が流れている。だからこそ、昔から^{おうよう}鷹揚な人が多いように感じますね。

佐藤さん、貴重なお話をありがとうございました。



昭和38年、土崎港にて。

グループ 「幸 SAIWAI」三人展



田中 幸子 思い出ベア
門間 幸子 つぶやきの詩
田村 幸子 陶芸・とんぼ玉

期間 令和4年
5月23日(月)～7月23日(土)

時間 10:00～18:00

入場無料

三人ともに同じ「幸子」と名付けられたことを幸運に思い、それぞれの道で経験したことを学んだことを創作というかたちで表現しました。

～まったり、のんびり落語会～ さとぴあ上新城寄席



日時 6月18日(土) 13:30～15:45

会場 上新城地区コミュニティセンター(ホール)

※車でお出の方には「さとぴあの駐車場」をご利用ください。

出演 ・秋田大学落語研究会
・社会人落語家 麴家りんりん
・ポニーハワイアンズ&フラ

会費 200円

※内履き(スリッパ等)をご持参ください。

申込 秋田市農山村地域活性化センターさとぴあ
018-893-3412(10時～18時)
※6月16日(木)18時締め切り

6月の講座一覧

6/1 水
段ボールで
燻製づくり体験

6/4 土
野菜の植え付け体験

6/8 水
菅江真澄が記録した秋田市

6/10 金
藍苗の植え付けと
藍染め体験

6/12 日
サツマイモの植え付け体験

6/19 日
リンゴの摘果作業と
リンゴ酢づくり



6/25 土
バター餅と寒天づくり体験

6/26 日
観葉植物の
フレームプランター作り

令和4年度 援農ボランティア ボランティア受入農家 募集中!



詳細はお問い合わせください。

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、7月7日・8日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。

